

第 4 回『呼吸と循環』賞一受賞論文発表

松元一郎論文(呼吸器領域)と 辺 泰樹論文(循環器領域)が受賞

『呼吸と循環』誌では 1 年間に掲載された論文を対象に、『呼吸と循環』賞(Respiration and Circulation Award)を設置しております。本賞は当該年度の『呼吸と循環』誌(1~12 号)に掲載された投稿論文(総説は除く)の中からオリジナリティのある論文を選考対象とし、原則として呼吸器領域 1 編、循環器領域 1 編に賞状と副賞 10 万円を授与致します。第 4 回となる今回、2011 年(59 巻)に掲載された投稿論文が対象となり編集委員による厳正な審査のもと 2 編の受賞が決まりました。以下に、受賞論文と受賞者、評価対象となった論文の受賞理由を発表します。

□呼吸器領域

【論文名】「経皮的冠動脈インターベンション(PCI)後の睡眠呼吸管理の重要性」(研究論文)

【著者名】松元一郎, 河上 良, 三宅祐一, 黒住瑞紀, 高木雄一郎(KKR 高松病院心臓血管病センター)

【掲載号】59 巻 5 号: 513-519 頁

【受賞理由】閉塞性睡眠時無呼吸(OSA)症候群の予後規定因子の一つは冠動脈疾患である。経皮的冠動脈インターベンション(PCI)による治療の進歩により、虚血性心疾患患者の予後は改善しているが、なお PCI 後の心血管イベント発症が問題になっている。OSA 症候群は、血行力学的異常、交感神経系活性化、内皮機能障害などの機序により、虚血性心疾患合併の危険因子になる。本研究は、PCI を施行した 464 名の患者を対象に睡眠検査を施行し、OSAS に対する CPAP 治療の主要心血管イベント(MACE: 心臓死、非致死的心筋梗塞、新規狭窄/再狭窄の出現)抑制効果を 5 年間に亘り検討している。AHI 15 以上の OSA を 65% と高率に合併しており、OSA 合併群では PCI 後の MACE 発症率が有意に高く、CPAP 治療は MACE 発症を有意に抑制したという結果である。冠動脈疾患に対しては、呼吸と循環の双方からの治療介入が必要であることを示した有意義な論文と評価された。



●松元一郎氏



●辺 泰樹氏

□循環器領域

【論文名】「非虚血性低心機能症例に対するカルベジロールの逆りモデリング効果の予測因子としての心臓 MRI 遅延造影検査の有用性」(研究論文)

【著者名】辺 泰樹, 井口信雄, 町田治彦, 高田香織, 歌野原祐子, 薄井秀美, 上田みどり, 堀江賢二, 丹羽辰徳, 水野直和, 堀川良史, 住吉徹哉(榊原記念クリニック・他)

【掲載号】59 巻 5 号: 521-527 頁

【受賞理由】拡張型心筋症は β 遮断薬によって、心機能が改善することが知られている。しかしながら β 遮断薬に対する反応性は個人差があり、どのような因子によって規定されているか明らかでない。

辺らの論文はこの問題に対し、心臓 MRI 検査の際の遅延造影を指標として検討したものである。その結果、遅延造影が陰性または低値である症例においては、 β 遮断薬(カルベジロール)による拡張末期容量指標、収縮末期容量指標、駆出率の改善が明らかとなった。これらの知見は拡張型心筋症の逆りモデリングのメカニズムの解明だけでなく、同症の個別医療の推進に有用である。辺らの研究は後ろ向き研究であり、今後、前向き介入研究が必要であるが、得られた情報は重要である。これらの理由により、本論文を「呼吸と循環賞」に推薦する。

以上